

漢法苞徳塾資料	No. 064
区分	治療・鍼法
タイトル	九鍼十二原論・関連篇について
著者	八木素萌
作成日	1997.04.06

『靈枢』九鍼十二原第1は、単に九鍼について記述しているのみの篇ではなくて鍼灸治療の全般について極く重要な問題を述べている篇であるから、鍼灸に携わるほどの人ならば暗記するぐらいに読み込んでほしいとまで言われているほど重要な文である。

いま「九鍼」を学ぶために、もっとも基礎的な『九鍼十二原』論を研究する訳である。この「篇」について丸山昌朗は「黄帝鍼経（靈枢）を学ぶに就て」の中で「…『黄帝鍼経』の撰述者は、専門の鍼医のようである。そして、臨床家としての一貫した態度で、之を編んでいる。…」(三)、「…第一巻、第二巻、即ち第一篇から、第九篇までが総論に当り、……この総論中で特に重要なのが第一篇、冠首の〈九鍼十二原〉である。本篇の中核を為す内容は、可成り古代のもので、〈黄帝素問〉以前のものである。……本篇は、鍼術の奥義を述べたものである。それ故に極めて解し難い。どうしても全文暗記するまで読み込む必要がある。……」(四)と書いている。

「九鍼」の形状や運用する場合について知るためには、この『九鍼十二原』「篇」を解説していると見られている「篇」は、どの「篇」であるかを知っておく必要がある。

『素問』では、「鍼解第54」篇がよく知られている。この他、「宝命全形論第25」「八正神明論第26」「離合真邪論第27」「通評虚实論第28」「調経論第62」も必要であると、丸山昌朗は書いている。

『靈枢』では、先ず「小鍼解第3」次いで「官鍼第7」「行鍼第67」「九鍼論第78」などが挙げられる。